

第1学年 数学科学習指導案

単元名 3章 方程式（1節 方程式）

本時の展開

- (1) 目標 方程式及びその中の文字や解の意味を理解できる。
 (2) 展開

過程	時間	学習活動	指導上の留意点	備考
導入	10分	1 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">めあて 「方程式と方程式の解の意味を知ろう」</div> 2 課題①について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">課題① 「1枚ずつ数えずに枚数を知るにはどうすればいいだろう。」</div>		挿絵 ワークシート
展開	35分	3 課題①について考える。 自分で 班で <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> 自分で考えた解法を班のみんなと出し合い、答えを導くために言語活動を設定する。 </div> 全体で	能動型学習 ◎机間指導を行い自分の考えが浮かんでいない生徒に対しては、ヒントを与え、思考の手助けとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートをもとに自分の考えを班で出し合えるようにする。 ・班の意見をまとめ、簡易ホワイトボードに書き、全部の班の意見が黒板に出るようにする。 ・考え方方が違う班があつたら発表してもらい、全体で共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">評価（観点①）【ワークシート】</div> B 基準 はがきとトレーの重さの関係から、はがきの枚数を求めようとしている。 A 基準 はがきとトレーの重さの関係から、はがきの枚数を求めることができている。 〈B 基準に達しない生徒への手立て〉 <ul style="list-style-type: none"> ・重さの関係を図や言葉の式で表して整理できるようヒントカードを配付する。 	簡易ホワイトボード ヒントカード
		4 課題②について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">課題② はがきの枚数を x 枚として、等しい関係を等式に表してみよう。</div> 5 課題②について考える。 自分で ペアで 全体で	<ul style="list-style-type: none"> ・つまづきのある生徒にはまずは言葉の式で考え、それを文字を使って式化していくように助言を行う。 ・「求めたい数量 = わからない数量」ということを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">徹底指導</div> ◎これまで自分たちが問題を解いてきた過程をもとに「方程式」、「方程式の解」、「方程式を解く」等の語句の意味を理解できるようにする。	教科書 p 76 問1、例1、問2
		6 新出語句やその意味の確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">まとめ 方程式…まだわかっていない数を表す文字を含む等式 解…方程式を成り立たせる文字の値</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">方程式を解く…解を求める</div>		
整理	5分	7 本時の振り返りをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">★本時の課題解決の過程を確認しながら本時の学習内容を振り返る</div>		自己評価シート